

令和 8(2026)年 7 月 17 日

うベアクアフロント株式会社
事業総括責任者 奥野 聡文

セルフモニタリング結果報告書（第 1 四半期）

標記について、宇部市公共下水道西部処理区運営事業に係る令和 8(2026)年第 1 四半期セルフモニタリングを実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 対象期間及び実施概要

対象期間	令和 8(2026)年 4 月 1 日(水)～令和 8(2026)年 6 月 30 日(火)
実施日	令和 8(2026)年 7 月 13 日(月) クロスチェック 令和 8(2026)年 7 月 15 日(水) モニタリング会議
実施内容	四半期報告書、月次報告書、月毎のセルフモニタリング確認様式及び月毎の重要指標（KPI）管理シートによる業務履行状況の確認
提出期限	翌月 45 日以内
実施体制	第 1 線：各業務担当者・各部門長（技術管理部・経営管理部）、第 2 線：各部門長（クロスチェック） モニタリング会議（代表取締役・各部長）

2. セルフモニタリング実施結果（セルフモニタリング確認様式による確認）

（1）公共施設等運営事業・義務事業（経営に関する業務）

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
1-1	実施体制	業務を効率的に実施し、適切なリスク分担と能力を有する責任者・従事者を配置する体制が確保されているか。	事業総括責任者・技術管理部長・経営管理部長の体制を維持。配置者の資格要件を充足。 従事者についても体制を維持、配置者の資格要件を充足。
1-2	委託等	委託禁止業務を自ら実施し、委託を行う場合は法令遵守と受託者等の適切な管理を行っているか。	委託禁止業務（経営管理・セルフモニタリング等）は自社にて実施。 随時、委託契約リストを毎月更新。追加にて委託契約がある場合については、文書管理システムの活用ができないか検討を指摘。
1-4	危機管理	災害や事故等の発生時に、人命優先の安全確保、市等への通報、応急処置や警戒態勢等の措置を適切に講じたか。	第 1 四半期中の重大な災害・事故の発生はなし。BCP・緊急連絡体制を維持。 台風 7 号の接近（6 月 27 日）に対し、警戒対応を実施。施設への影響はなし。なお、6 月 25 日に発生した小串ポンプ場の停電（中国電力側の原因）については、自家発電設備及び No. 2 雨水ポンプの稼働により対応した。

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
1-5	情報公開	市民等からの意見に対して情報公開規程に基づき適切に対応しているか。	第1四半期中の市民等からの意見・問い合わせはなし。 文書管理システムにより対応記録を管理。

(2) 公共施設等運営事業・義務事業（維持管理に関する業務）

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
2-1	維持管理基準（水質）	放流水質（pH・BOD・SS・大腸菌数）が法定基準及び要求水準値を満足しているか。	4月及び6月は適合。4項目すべて要求水準値を満たしていることを確認。 5月は4項目すべて要求水準値を満たしているものの、目標水質のBODが超過。流入水質の計画値を超過と、降雨時の3W処理法切替の影響が大きな要因。 下水道維持管理指針（下水道協会発行）に基づき、降雨時の影響がある際の採水を行わないように調整することを指摘。6月に受託者及びその水質担当者と協議済みを確認。 6月に流入水質の計画値の超過が継続しており、放流水質について、全窒素、全リンが上昇傾向にあるため、年間水質維持管理計画に基づく対応状況を確認し、硫酸バンドの滴下の実施等を確認した。 No.1消化槽の攪拌機能が停止したことによる事業での影響の検討をしていることを確認。
2-2	エネルギー管理	エネルギー使用量を把握し、目標値を設定の上、運転操作の工夫等による省エネ・脱炭素の推進を図っているか。	適合。電力の処理原単位については目標値を下回っていることを確認。
2-3	汚泥管理	汚泥の濃度や含水率等を監視し、自主基準の遵守や平衡状態の維持など適切な汚泥処理・運転操作を行っているか。	適合。汚泥濃度・含水率を日常試験にて管理。法定検査基準値逸脱なし。東部浄化センター汚泥検査結果においても月間を通じた大きな変動なし。 5月は、No.2脱水機トラブルにより、休止していたNo.1脱水機を使用したことで高分子凝集剤の原単位が悪化。速やかに薬剤の再選定することを指摘。6月に薬剤の再選定の完了を確認。
2-4	廃棄物管理	発生廃棄物を関係法令に基づき適正に処理し、搬出時の飛散・悪臭防止等の周辺環境配慮を行っているか。	適合。電子マニフェストにより搬出・処分を管理。汚泥等産業廃棄物の適正処理を確認。 チェック体制を確認。維持管理担当2名によるチェックを確認。 臭気・飛散防止対策を継続して実施することを指摘。
2-5	修繕	保守点検等に基づき予防保全的な計画修繕を実施し、突発故障時には被害抑制のうえ速やかに緊急修繕を行ったか。業務フローに基づき手続きを行ったか。	適合。5月にNo.2脱水機のトラブル要因であるろ布洗浄ポンプの修繕について、実施フローの確認。緊急修繕のフローについては、改善の余地があり、手続きを再検討するよう指示し、6月に手続きを再検討し改善案を作成。次回実施の際検証するよう指摘。 6月8日のNo.1—1消化槽ガス攪拌ブロワの運転禁止に伴うNo.1消化槽運用の確認及び修繕の検討状況を

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
			確認。 計画修繕は予定どおり進捗（発注準備）を確認。 設備台帳（仮運用）に履歴を記録。

（３）公共施設等運営事業・義務事業（改築に関する業務）

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
—	—	—	第１四半期中の確認事項なし

（４）包括的民間委託事業・運転管理業務、保守管理業務

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
4-1	緊急時対応	緊急事態発生時に規定時間内に責任者等が参集し、連絡・動員体制のもと応急措置を講じているか。マニュアルに基づき、業務を行ったか。市への報告を適正に行ったか	適合。雨天時ポンプ場待機・緊急配備体制の維持を確認。 雨天時ポンプ場での対応【小串ポンプ場５日（６月２０日、２４日、２５日２回、２６日）・真締川ポンプ場１日（６月２０日）】時の記録を確認し、６月２０日の社内の情報共有方法について改善を指摘（６月２２日時点で改善しており、改善内容を確認）。 ６月２５日小串ポンプ場停電発生時のフローを確認。雨天時対応と並行作業であったためと聞き取り。再度マニュアルの周知を予定。 各機場の警報発報時の内容及び対応を確認。 宇部市に対し、機器トラブルの予防保全につながる改善要望を行ったことを確認。この内容については、具体的な改造方法、概算費用を提案することが必要と指摘。
4-2	保守点検業務	日常・定期・法定点検やマンホールポンプ場の点検等を計画通りに実施し、給油や清掃等の保守業務及び電気工作物の保安管理を確実にやっているか。	適合。各対象施設（小串・浜田・真締川・厚南ポンプ場、マンホールポンプ施設等）の日常点検・定期点検を計画どおり実施。保守業務（給油・清掃等）も適切に実施。電気工作物保安管理を継続。
4-3	修繕業務費用	修繕実施前に見積書を提出し市の承諾を得ているか。ただし緊急時や１０万円以下の場合は事前連絡のうえ事後提出等、所定の手続きを遵守しているか。	適合。５月、厚南３-４マンホールポンプ場の実施フローについて確認。緊急修繕の社内におけるフローについては改善の余地があるため、手続きを再検討するよう指摘。６月に立案、今後実施において検証をするよう指摘。
4-4	計画業務策定協力	市の計画策定に必要な情報（維持管理報告書や点検・調査記録等）を遅滞なく提供・協力しているか。	適合。維持管理情報の集積内容の確認。クラウド方式による設備台帳の整備の進捗を確認。

(5) その他の業務

No.	区分	確認事項	確認結果・コメント
5-1	安全衛生管理	安全衛生管理活動を推進し、危険排除や保護具使用・手順遵守により災害防止に努めているか。	適合。安全パトロールを実施。労働災害の発生はなし。安全教育の毎月実施を確認。
5-2	安全衛生協議会	安全衛生協議会を月 1 回開催し、危険作業の洗い出しや対応策の検討を行っているか。	適合。毎月開催を確認。西部浄化センターの危険箇所を洗い出し、対応策の協議を進めていることを確認。

3. セルフモニタリング実施結果（重要指標（KPI）管理シートによる確認）

No.	重要指標（KPI）	目標値 (要求水準)	第1Q 実績	判定	備考
5	労働災害発生件数（休業 4 日以上）	0 件	0 件	○	事業安全を確保
7	電力消費原単位	0.30kWh/m ³ 以下	0.223 kWh/m ³	○	
9	地域住民等との情報交換	年 4 回（協賛含む）	2 回	— 年度評価	老人クラブ連合会が見学
12	放流水質（BOD）	要求水準：15mg/L 以下 目標水質：10mg/L 以下	6.0mg/L	○	5 月度に目標水質を超過したが、要求水準値以下
13	放流水質（SS）	要求水準：40mg/L 以下 目標水質：20mg/L 以下	5mg/L	○	目標水質を大幅に下回る
14	放流水質（pH）	要求水準：5.8～8.6 目標水質：5.8～8.6	6.9	○	要求水準・目標水質内
15	放流水質（大腸菌数）	要求水準：800CFU/mL 以下 目標水質：800CFU/mL 以下	1CFU/mL	○	目標水質を大幅に下回る
16	設備故障に伴う水質事故回数	0 回	0 回	— 年度評価	第1 四半期は事象なし
17	改築進捗率	発注金額（うち当該年度予算分）/年度実施協定額	0%	○	第1 四半期発注なし
18	（雨水）ポンプ故障に起因する運転停止回数	0 回	0 回	— 年度評価	第1 四半期は事象なし
19	（汚水）ポンプ故障に起因する溢水回数	0 回	0 回	— 年度評価	第1 四半期は事象なし

4. 総括

令和8年度第1四半期は、事業運営において業務手順の確認を行う機会が増加した。事業開始前に想定していた業務手順では実運用での課題もあり、改善を随時行った。引き続き、主要な業務については、手順について再確認をすすめて運営を行う。

○水質管理

放流水質（BOD：6.0mg/L、SS：5mg/L、pH：6.9、大腸菌数：1CFU/mL）はいずれも要求水準を満たしたものの**5月の1検測はBODについて目標水質を超過**している。流入水質の計画値を超過と、降雨時の3W処理法切替の影響が大きな要因であることから、下水道維持管理指針に基づき、降雨時の影響がある際の採水を行わないように調整する。

運転管理上課題となった、第1消化槽の攪拌停止について、運用方針をたて出資会社へセカンドオピニオンを行ったことを確認した。

○安全管理

労働災害の発生はなく（0件）、安全衛生協議会の月次開催、安全パトロールの実施により、安全管理体制を適切に維持した。

○改築業務

KPIに基づく進捗が0であり課題事項を共有し、8月発注となることを確認。宇部市の実施設計内容について、再精査に時間を要していること、公募型契約に関する社内調整に時間を要していることを再確認。

○施設維持管理（包括委託含む）

西部浄化センター及び各ポンプ場・マンホールポンプ施設において、日常点検・定期点検・保守業務を計画どおり実施した。事故・不適合事象の発生はなく、安定的な維持管理を行った。マンホールポンプの不具合が発生したものの、協力企業の迅速な対応により早期に解決した。

小串ポンプ場及び真締川ポンプ場について、事業開始後初めて降雨対応を行った。6月20日の対応においては、UAF社内の情報共有に課題が生じたため、情報端末による情報共有の改善を再確認した。

○指摘・指導事項

業務フローにおいて、改善が必要となるものがあつた。緊急修繕の手配において、契約手続きに要するフローに齟齬があり、円滑に手続きが進まなかったことから6月中に改善した。

文書管理システム（Documal）について、宇部市とのやり取りで必要なものについて、追加を行う旨確認した。

引き続き、セルフモニタリング実施計画に基づき、適切な業務履行と継続的な改善（CAPDサイクル）を実践し、宇部市公共下水道西部処理区の安定的かつ効率的な運営を推進してまいります。

以上